

フロン回収に関する啓発チラシについてのQ & A

2024-1-19
冷媒回収機委員会
フロン回収に関する啓発チラシ作成検討WG

★全般（管理者様・所有者様向け／回収業者様向け）

No.	Q	A
1	<p>回収や再生のチラシは他にも発行されているようですが、今回のチラシは何を目的にしているのですか？ また、管理者・所有者向け／回収業者向けで別々に発行している目的は何でしょうか？</p> <p>（他の例）</p> <p>①日本冷凍空調学会： フロンは貴重な資源 冷凍空調用フロンはリサイクルへ</p> <p>②冷凍空調社会と暮らしを支える冷凍空調機器の冷媒リサイクル推進会議（JRECO 含む 5 団体）： 代替フロン(HFC)は貴重な資源です 冷凍空調用フロンは回収しリサイクルへ</p> <p>③環境省： ビル用マルチエアコンからの確実なフロン類回収のためのガイドブック ～機器一台当たりのフロン類回収率の向上を目指して～</p>	<p>地球温暖化防止のため、現在、冷凍空調機器に主に使用されている代替フロンの機器廃棄時・サービス時の回収徹底と今後のサービス時に使用する代替フロンの資源確保のため、回収した代替フロンの再生対応も重要となっております。</p> <p>回収・再生についての提言・要請は、行政・各団体などからも既にパンフレットなどで発行されていますが、当委員会の各社は、冷媒回収機やその他の冷凍空調ツールを製造・販売しておりますので、現場により近い立場にある者として、回収・再生について対象の方々へ要請していくことが有効であり貢献できると考え、チラシを作成し、啓発活動を行うこととしました。</p> <p>機器の管理者・所有者と回収業者では立場が異なるため、それぞれに対応した2種類のチラシを準備しました。 各チラシの主な掲載内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者・所有者向け フロン排出抑制法での業務用冷凍空調機器の管理者・所有者の責務を再確認いただき、日常の機器の保守管理や機器サービス時等のフロン回収はフロン充填回収業者へ対応を依頼していただくこと、また、今後の機器サービス時の代替フロン確保のための再生の重要性も掲載しました。 建屋の解体などで、全体的な日程計画において、冷媒回収作業の内容及び重要性の理解が不足している場合、機器や冷媒回収機の運転に必要な現地電源が既に撤去されていたり、エレベーターの使用不可・制限により地下又は屋上への冷媒回収機材の搬入が制約されたり、作業時間の制約等が発生しています。 そのため、さらに回収率を向上させるには、管理者・所有者に認識いただき、協力いただくことが重要として掲載しました。 ・回収業者向け 回収率を向上させるための方策および回収後に有効に再生へ繋げるための回収作業での注意を主に掲載しました。

● 管理者様・所有者様向けチラシ

No.	Q	A
1	業務用冷凍空調機器の所有者、管理者の定義はどのようなものですか？	原則として、機器（製品）の所有者が管理者となります。 ただし、契約書などの書面で保守や修繕の責任を所有者以外が負う場合、その者が管理者となります。 ・一般的に、リース（ファイナンス・リース、オペレーティング・リース）による機器の保守・修繕の責務は使用者側にあるとされています。（管理者はリースを受けている事業者） ・一般的に、レンタルにおける物件の保守・修繕の責務は、所有者側にあるとされています。（管理者はレンタル事業者）
2	業務用冷凍空調機器とはどのような機器が含まれますか？	フロン排出抑制法の対象となる業務用冷凍空調機器とは、業務用として製造をされているものであり、冷媒としてフロン類が使用されているものが対象です。法律で「第一種特定製品」と呼んでいます。 実際の使用の用途が家庭用であっても業務用に製造されたものであれば対象となります。（使用場所や使用用途ではなく、その機器が業務用として製造・販売されたかどうかで判断されます。） 家庭用のエアコン、冷蔵庫及び衣類乾燥機並びに使用を終了した自動車に搭載されているカーエアコンはフロン排出抑制法に基づく回収その他の義務はありません。それぞれ、家電リサイクル法、自動車リサイクル法でフロン類の回収が義務付けられています。 また、家庭用の機器との見分け方については、 ①室外機の銘板、シールを確認する。 （平成14年4月（フロン回収・破壊法の施行）以降に販売された機器には表示義務があり、第一種特定製品であること、フロンの種類、量などが記載されています。また、それ以前に販売された機器についても、業界の取組等により、表示（シールの貼付）が行われています。） ②機器のメーカーや販売店に問い合わせる。等の方法があります。 環境省の下記ホームページの「フロン排出抑制法ポータルサイト」の「Q&A」でご確認ください。 https://www.env.go.jp/earth/furon/faq/index.html
3	責務とは、何を指すのですか？	責務とは、「自分の責任として果たさなければならない事柄」と定義されており、ここではフロン回収の必要性を指します。
4	フロンの種類や充填量はどのように確認すればよいですか？	多くの業務用機器では、室外機などにフロンの種類や充填量が表示された銘板・シールが貼られています。不明な場合や平成14年4月以前の機器の場合は、機器の製造メーカーへお問い合わせください。
5	冷媒配管系統図や機器設置図、点検整備記録簿とはどのようなものですか？	・冷媒配管系統図（または冷媒配管図）： 冷媒を循環させる配管の配置を示す図です。 冷媒の流れ、弁、接続部および冷却/加熱ユニットの位置を示します。 ・機器設置図： 冷媒機器の設置場所を示す図です。 室内機、室外機、配管および電源の配置を示します。 ・点検整備記録簿： 冷媒機器の点検、修理、充填、回収などの履歴を記録する文書です。 フロン排出抑制法に基づき、第一種特定製品の管理者は点検記録簿を作成・保存し、機器の廃棄後も3年間保存する義務があります。
6	行程管理票とはどのようなものでしょうか？ どこで手に入りますか？	フロン回収行程管理票とは、業務用冷凍空調機器などのフロンを含む機器を廃棄する際に、フロンの回収や破壊・再生処理を行う業者との間で交付される書面です。 （一財）日本冷媒・環境保全機構（JRECO）の下記ホームページの「行程管理票の入手先」をご確認ください。 https://www.jreco.or.jp/koutei.html

7	冷媒回収用の電源とはどのようなものを指しますか？	回収装置によりますが、AC100V、または 200V が必要です。電圧降下により起動不良を起こす可能性があるため、タコ足配線箇所から電源を取ることを避ける、延長コードの使用は極力避け、電圧降下が見られる場合はアップトランス(昇圧変圧器)などを使用してください。発電機やポータブル電源でも使用できるものもありますが、出力や容量は余裕を持ったものをご用意ください。
8	電源が無い場合はどうすればよいですか？	発電機などを使用するか、元電源から遠い場合はアップトランスなどを使用してください。
9	フロンの回収はフロン充填回収業者に依頼と記載があります。フロン充填回収業者とは誰のことでしょうか？	<p>第一種特定製品である業務用空調機器や業務用冷蔵冷凍機器等の整備または廃棄をおこなう際に、冷媒フロン類の充填・回収を行う都道府県知事の登録を受けた第一種フロン類充填回収業者となります。</p> <p>環境省の下記ホームページの「各都道府県の第一種フロン類充填回収業者登録簿」で登録業者の確認ができます。 https://www.env.go.jp/earth/ozone/cfc/ctr.html</p>
10	フロン充填回収業者へはどのように依頼すればよいですか？	<p>環境省の下記ホームページの「フロン排出抑制法ポータルサイト」での流れに沿って、第一種フロン類充填回収業者へ依頼してください。 https://www.env.go.jp/earth/furon/operator/haiki.html</p> <p>なお、機器の整備時と廃棄時については次のように記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備時(充填・回収) 整備に際して冷媒としてフロン類を充填、又は回収する必要があるときは、第一種フロン類充填回収業者に委託しなければなりません。 整備時充填、整備時回収の際には、第一種フロン類充填回収業者は充填証明書、回収証明書を交付します。 ・廃棄時回収 第一種特定製品の廃棄等の際には、第一種フロン類充填回収業者に回収を依頼する必要があります。また、その際、回収依頼書の交付等が必要です。
11	余裕のある作業日程とはどのくらいの日程ですか？	<p>フロン回収を依頼する際、余裕のある作業日程はいくつかの要因により異なりますが、以下のポイントを考慮してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①作業内容と規模 フロン回収作業の規模や機器の数によって所要時間が異なります。大規模な冷媒回収作業では、より多くの時間を確保する必要があります。 ②フロンの種類と充填量 フロンの種類や充填量によって回収作業にかかる時間が変わります。古い空調機器の場合、フロンの充填量が多く回収には時間がかかる場合があります。 ③作業場所とアクセス 作業場所のアクセスや移動時間も考慮する必要があります。屋内か屋外か、エレベーターの利用が可能かなども確認してください。 ④フロン回収技術者のスケジュール フロン回収技術者のスケジュールの都合も考慮してください。事前に予約を行う際に、技術者のスケジュールを調整することが重要です。 <p>一般的には、フロン回収作業には最低でも数時間から半日程度の時間が必要です。具体的な日程は、フロン回収業者に直接相談し、作業内容や条件に合わせて調整していただくことをお勧めします。</p>
12	オゾン層破壊と地球温暖化への影響がある特定フロンを使った機器とはどのようなものですか？	<p>以前に多く使用されていた CFC, HCFC の特定フロンを使った機器を指します。CFC, HCFC の特定フロンは、オゾン層破壊と地球温暖化への影響があるため、代替フロンへの転換が進められてきました。しかし、従来の代替フロンでは地球温暖化への影響が大きいため、現在、影響の少ない新しい代替フロンやフロン系以外の冷媒の開発研究や転換が検討されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R22 (HCFC) : R22 は過去に広く使用されていたフロンで、冷凍空調機器や冷蔵庫などに使わ

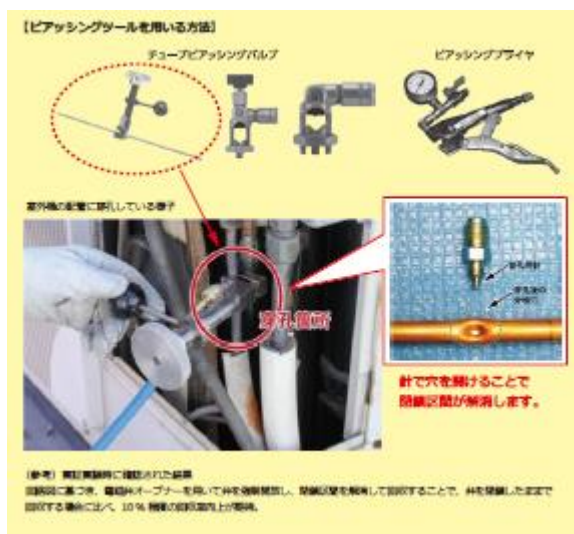
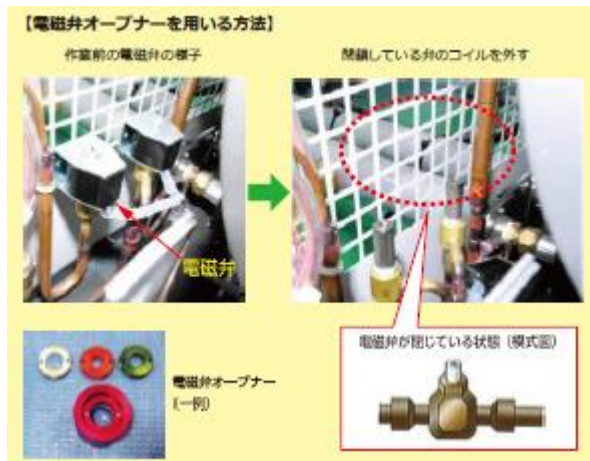
		<p>れていました。しかし、オゾン層破壊の影響が判明したため、現在は代替フロンに置き換えられています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R12 (CFC): R12 も特定フロンの一つで、冷蔵庫やエアコンなどに使用されていましたが、オゾン層への影響が判明したため、使用が制限されています。 											
13	温暖化影響の少ない冷媒とはどのようなものですか？	<p>フロンのなかでも温暖化影響の少ない R32、R1234yf などがあります。また、フロン以外の自然系冷媒である CO2 やアンモニア、炭化水素系冷媒などを使用した冷凍空調機器も開発されています。</p>											
14	「再生処理は破壊処理に比べ、必要エネルギー約 20 分の 1」とはどのような計算に基づくものですか？	<p>日本における R410A の再生・破壊の LCA (Life Cycle Assessment) 評価結果では再生処理する場合、破壊処理する場合と比較して LIME は約 1/20 の値となっています。</p> <p>LIME (Life Cycle Impact assessment Method based on Endpoint modeling) とは環境負荷について、地球温暖化影響に加え人間健康や生物多様性など様々な領域への環境影響を統合的に評価して被害想定金額として算定・評価する指標です。</p> <p>日本冷凍空調学会の下記ホームページに「R410A の再生・破壊の LCA 評価」として掲載されています。 https://www.jsrae.or.jp/site/committee/ondanka/reibaisaisei_hiyouka.pdf</p> <p>参考文献 (1) 薬師寺史朗, 藤本悟, R410A 冷媒の回収・再生による環境影響の考察 2022 年度日本冷凍空調学会年次大会講演論文集 (2) Yasaka, Y.; Karkour, S.; Shobatake, K.; Itsubo, N.; Yakushiji, F. Life Cycle Assessment of Refrigerants for Air Conditioners Considering Reclamation and Destruction. Sustainability 2023, 15, 473. https://doi.org/10.3390/su15010473</p>											
15	フロン排出抑制法にはどのような罰則規定がありますか？	<p>フロン排出抑制法には、違反した管理者に対して主に以下のような罰則が設けられています。 詳しくは環境省の以下ホームページでの「フロン排出抑制法に基づく義務及び罰則一覧」を確認願います。 https://www.env.go.jp/earth/earth/pamphlet_furon.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロン類をみだりに放出した場合 1 年以下の懲役または 50 万円以下の罰金 ・機器の使用・廃棄等に関する義務に違反した場合 50 万円以下の罰金 <p>これらの罰則は、フロン排出抑制法の遵守を促すために設けられています。フロン排出抑制法の罰則を取り締まるのは、環境省および都道府県知事が担当しています。具体的には、環境省が法令の整備や指導を行い、都道府県知事が地域ごとの違反行為に対して罰則を科す役割を果たしています。</p>											
16	日常点検にはどのような項目がありますか？	<p>ビル用マルチエアコンの場合は、下表のような点検内容となります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">点検項目</th> <th>推奨点検頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">室外機点検</td> <td>・機器の異常振動・異常運転音 (安全で容易に点検出来る場合)</td> <td rowspan="3">1回/日以上</td> </tr> <tr> <td>・機器及び機器周辺の油のにじみ (安全で容易に目視が出来る場合)</td> </tr> <tr> <td>・機器のキズの有無、熱交換器の腐食、錆びなど (安全で容易に目視が出来る場合)</td> </tr> <tr> <td>室内機点検</td> <td>・熱交換器の霜付きの有無 (安全で容易に目視が出来る場合)</td> <td>1回/日以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>JRECO の下記ホームページの「簡易点検の手引き」を参照願います。 https://www.jreco.or.jp/data/guidance_6.pdf</p>	点検項目		推奨点検頻度	室外機点検	・機器の異常振動・異常運転音 (安全で容易に点検出来る場合)	1回/日以上	・機器及び機器周辺の油のにじみ (安全で容易に目視が出来る場合)	・機器のキズの有無、熱交換器の腐食、錆びなど (安全で容易に目視が出来る場合)	室内機点検	・熱交換器の霜付きの有無 (安全で容易に目視が出来る場合)	1回/日以上
点検項目		推奨点検頻度											
室外機点検	・機器の異常振動・異常運転音 (安全で容易に点検出来る場合)	1回/日以上											
	・機器及び機器周辺の油のにじみ (安全で容易に目視が出来る場合)												
	・機器のキズの有無、熱交換器の腐食、錆びなど (安全で容易に目視が出来る場合)												
室内機点検	・熱交換器の霜付きの有無 (安全で容易に目視が出来る場合)	1回/日以上											

17	「フロン類の適切な管理が義務付けられています」とは、どのようなことを指すのですか？	<p>以下の内容です。</p> <p>① 機器を適切に設置し、適正な使用環境を維持し、確保すること</p> <p>② 機器を点検すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての機器は簡易点検（3ヶ月に1回以上）が必要 ・圧縮機定格出力 7.5kW 以上の機器は専門家による定期点検が必要 <p>③ 点検の結果を記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ、だれがどの機器を点検したか記録し、保存しておく <p>④ 算定漏えい量（フロンの漏えい量）の計算を行い、一定量以上は国へ報告</p> <p>⑤ 機器を廃棄する</p>
18	回収されたフロンは、所有者が再生するよう依頼するのでしょうか？ 回収業者の判断でしょうか？	<p>冷凍空調機器を廃棄する際に必要な行程管理票の所有者が記載する項目の中に、フロン類の処理方法について「再生希望」、「再生・破壊のどちらでもよい」、「破壊希望」を選択する箇所があります。</p> <p>「再生・破壊のどちらでもよい」にチェックした場合、回収業者が再生か破壊を判断いたしますが、フロンは貴重な資源ですので再生をご依頼ください。</p>
19	家庭用のエアコンのフロンガスは回収しなくても良いのでしょうか？	<p>家庭用については家電リサイクル法で管理されており、機器廃棄時のフロン回収は家電リサイクル施設で行われています。</p> <p>また、一部条例で回収を義務付けているところもあります。</p> <p>家庭用エアコンであってもフロンガス回収の実施をお願いします。</p>
20	R1234yf は回収が必要なのでしょうか？	<p>R1234yf（HF0-1234yf）は、地球温暖化係数（GWP）が極めて小さく、フロン排出抑制法に規定するフロン類には該当せず、回収義務はありません。しかし、R1234yf は高価であり、貴重な資源でもありますので回収・再生をお勧めいたします。</p> <p>R1234yf を回収する際は、R1234yf の回収に対応したフロン回収装置（特定不活性ガス回収装置）を使用する必要があります。</p> <p>R1234yf が回収可能なフロン回収装置については各メーカーへ問い合わせいただくか、日冷工ホームページの自己認証一覧表を参考をお願いします。</p> <p>https://www.jraia.or.jp/product/file/2311_flon_list_new.pdf</p>

◆回収業者様向けチラシ

No.	Q	A
1	「フロンの回収率は4割程度」はどのような算出方法ですか？	業務用冷凍空調機器の廃棄時等におけるフロン類の回収率は、機器の年度別出荷台数、経年別廃棄台数割合、フロン類初期充填量等から当該年度における廃棄時残存冷媒量を推計し、これに占める当該年度における回収量（フロン排出抑制法第47条第4項に基づき、都道府県知事から通知のあった業務用冷凍空調機器の廃棄時等においてフロン類を回収した量の集計値）の割合で算出しています。 経済産業省ホームページ「業務用冷凍空調機器の廃棄時等におけるフロン類の回収率について」より https://www.meti.go.jp/press/2021/12/20211224004/20211224004-3.pdf
2	なぜ回収率が4割程度なのですか？	回収作業が確実に実施されていなかったり、回収時間の不足、回収作業に関する現地制約などが要因と考えられます。
3	回収率の向上はどのくらいを目指していますか？	2021年に改訂された地球温暖化対策計画にて、フロンの廃棄時回収率の目標値を2025年で60%、2030年で75%としております。
4	封入冷媒の種類と充填量の記載が消えて不明な場合どうしたらよいですか？	不明な場合は、機器の製造メーカーにお問い合わせください。
5	フロンの破壊と再生は、料金はどちらが安いですか？	料金は、ご依頼される第一種フロン類再生業者、フロン類破壊業者、省令49条業者へご確認ください。 省令49条業者： 平成26年経済産業省・環境省令第7号 フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（略称「フロン排出抑制法」）施行規則 第49条第1号の規定に基づき都道府県知事が認定した事業者
6	各種弁とはどのようなものですか？	冷凍空調機器内部では、各所に電磁弁、逆止弁、膨張弁等が設けられています。この各種弁が閉鎖すると閉鎖区間が生じます。閉鎖区間が生じたままフロンの回収作業を行うと、回収基準圧力に到達しても、閉鎖区間に冷媒が残存することがあります。 環境省ホームページ「機器一台当たりのフロン類回収率向上に向けたガイドブック」を参照願います。 https://www.env.go.jp/content/000117668.pdf
7	機器の取扱説明書がどこにあるかわかりません。どうしたらよいですか？	不明な場合は、ご購入された販売店様にご相談、機器の製造メーカーのホームページなどからご確認ください。
8	回収モードとは何ですか？	回収モードとは、冷媒回収をスムーズに進めるために設けられた機器の機能です。冷媒回収時に室外機内の電磁弁などの各種弁を開き、冷媒回路の閉鎖区間をなくして、回収を補助する機能などとなります。 回収モードを使用することで、回収率の向上が期待できます。 ただし、冷媒回収方法や回収モードの有無に関する情報は、機器の扉の裏側に記載されていたり、限定的に公開している取扱説明書のみに記載されている等、製造メーカーによって異なりますので、不明な場合は回収作業前に機器の製造メーカーへの問い合わせ等を行ってください。 環境省ホームページ「機器一台当たりのフロン類回収率向上に向けたガイドブック」を参照願います。 https://www.env.go.jp/content/000117668.pdf
9	専用ツールとはどのようなものですか？	ピアッシングバルブや電磁弁オープナー等のツールです。

10 ピアッシングバルブや電磁弁オープナーとはどのようなものですか？



環境省ホームページ「機器一台当たりのフロン類回収率向上に向けたガイドブック」を参照願います。

<https://www.env.go.jp/content/000117668.pdf>


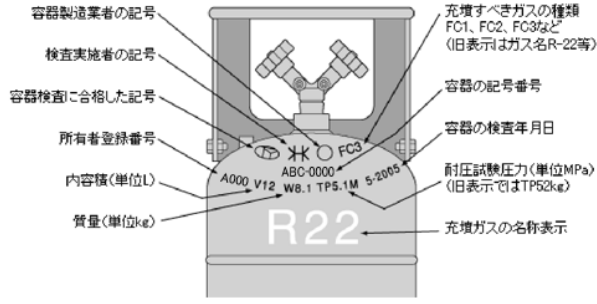
11 加温はどのようにして行えばよいですか？

ヒートガンなどで行えますが、40℃以上に温めることは高圧ガス保安法により禁じられています。



環境省ホームページ「機器一台当たりのフロン類回収率向上に向けたガイドブック」を参照願います。

<https://www.env.go.jp/content/000117668.pdf>

12	回収容器の温度を下げるにはどのような方法がありますか？	<p>写真のように、ポンペを冷水に浸しつつ、濡れ雑巾を巻き付けて霧吹きを行い常に湿らせることで、効果的な気化熱による冷却が促進できます。</p> <p>また、直射日光を避け、風通しの良い場所で作業を行ったり、冷媒回収用のサブコンデンサー（水冷・空冷）などを使用することでも回収容器の温度を下げることも有効です。</p> <p>【ポンペの冷却方法（一例）】</p>  <p>環境省ホームページ「機器一台当たりのフロン類回収率向上に向けたガイドブック」を参照願います。 https://www.env.go.jp/content/000117668.pdf</p>
13	回収容器の規定でどのような表示が必要ですか？	<p>高圧ガス保安法の容器保安規則では以下の様な表示が定められています。</p>  <p>日冷工ホームページの「回収容器（ポンペ）」を参照願います。 https://www.jraia.or.jp/product/flon/e_bombe.html</p>
14	十分な真空引きとはどのようにすればよいですか？	回収装置の取入口のバルブを閉じた状態で回収装置の吐出口と真空ポンプをホースで接続し、10分以上真空引きを実施してください。
15	回収に使用する機材とはどのようなものが含まれますか？	マニホールドやホース及びそれらと共に使用するボールバルブなど回収時にフロンが内部を通過したり、直接触れたりする機材を指します。
16	回収ホースの径に推奨の径などがありますか？	内径が大きいほうが回収スピードは早くなりますが、回収容器の温度上昇の原因にもなります。夏場などは回収容器の温度を下げる対策を十分に行い、内径が大きいホースを使用することをおすすめします。
17	冷媒の寝込み・溶け込みとは何でしょうか？	液化した冷媒が冷凍機内に溜まってしまふ現象を冷媒の寝込み、冷凍機内の油中に冷媒が溶け込むことを冷媒の溶け込みと言います。冷媒回収時など冷凍機内の冷媒圧力の低下によって発生します。
18	業務用エアコンの回収率を上げる何か良い方法がありましたら教えてください。	今回のチラシを参考にしてください。また、環境省が発行している「機器一台当たりのフロン類回収率向上に向けたガイドブック」がありますので、あわせて参考にしてください。 https://www.env.go.jp/content/000117668.pdf

19	回収したフロンガスは破壊処理する場合、回収容器に異なる種類のガスが混合していても問題ないでしょうか？	<p>高圧ガス保安法では容器に表示したガスのみが充填できることになっているため、異種混合は法令違反となります。</p> <p>また、異種混合した回収容器は回収容器内の圧力が上昇する場合があります、非常に危険です。絶対にお止めください。</p>
20	使用する機材をフロンの種類ごとに準備することを推奨するのはなぜですか？	<p>冷凍空調機器の冷凍サイクル内には冷媒と共に冷凍機油が存在しており、回収時には冷凍機油も同時に回収します。冷凍機油にはフロンが溶け込む性質があるため、前回異なるフロンを回収する時に使用したホース、マニホールドや回収装置などの機器を使うと内部に残留した冷凍機オイルやフロンなどにより異種混合し、再生ができなくなる可能性があります。そのため、使用する機材をフロンの種類ごとに準備することを推奨しています。</p>
21	フロンを回収したポンペを破壊再生する際、どこに持ち込めば良いですか？	<p>環境省の以下のホームページに第一種フロン類再生業者およびフロン破壊業者の名簿が掲載されていて、住所や連絡先が確認できます。</p> <p>https://www.env.go.jp/earth/ozone/cfc.html</p>
22	作業中の安全対策にはどのようなものがありますか？	<p>フロン回収作業中の安全対策は非常に重要です。以下のような、フロン回収作業における注意事項と安全対策があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●回収作業場所に係る留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・引火性のある危険物（例：LPガス）の近くで回収しないこと。 ・凸凹の激しい床や傾斜のある場所、振動の多い場所での作業を避けること。 ・雨や水のかかる場所、換気不備な機械室、直射日光が当たる場所を避けること。 ●回収装置の高圧ガス保安法に係る留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・回収装置の指定以外の冷媒を回収しないこと。 ・回収装置の変形や腐食の有無を定期的に点検すること。 ・有効期限切れの回収容器は使用しないこと。 ●その他の安全に係る留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・作業中は保護メガネと保護手袋を着用すること。 ・冷媒ホースの接続部を確実に締め込むこと。 ・作業場所から離れず、常に回収作業を監視すること。 ・作業終了後は回収装置と回収容器の接続口を確実に閉じること。 <p>日冷工の以下ホームページの「フロン回収における注意事項」にも記載していますので、内容を確認願います。</p> <p>https://www.jraia.or.jp/product/flon/i_attention.html</p>